

No.101

会 報

2002（平成14）年12月15日 Shizuoka Consulting Engineers Association 静岡県技術士協会
事務局 〒416-0952 建設コンサルタントセンター内（TEL 0545-64-6665 FAX 0545-64-3690）

会 長：守屋 文二 専務理事：吉澤 淳
編集担当者：森 稔夫 山之上 誠 高尾和宏

振込口座：静岡銀行清水中央支店普通0718595 静岡県技術士協会会計藤田協右（0543-64-1148）

[2002 年度・第2 回例会開催]



現地見学 静岡ガス第二駿河幹線蒲原トンネル作業所

例会概要

-
1. 日 時：平成14 年10 月11 日
13:30 ~ 19:00
2. 場 所：静岡ガス株式会社本社
概要説明：301 会議室
静岡ガス株式会社設備技術グループ
グループリーダー 望月 俊直氏
現地見学：第二駿河幹線工事
3. 内 容：静岡ガス株式会社は静岡県中東部

を中心に約29 万戸の顧
客に都市ガスを供給し
ている。

これらの顧客にクリー
ンエネルギー天然ガスを切り替え供給するため
第二駿河幹線工事を施工中である。計画延長
28km 余、平成16 年6 月完工の予定である。
清水市と富士市を結ぶこの幹線は国道1 号線等



のわが国主要交通網、集中する住宅等沿線住民への影響等を考慮し、山岳トンネルを主体とするルートを採用している。

現地見学は土木工学的に参考事項が多かった。

4.出席者:28名

5.付記 今回の企画、実施に際し、吉永勝也会員、森稔夫常任理事に大変お世話になりました。

厚く謝意を表する次第である。

技術士継続教育(CPD)参加証明書(写)

様

平成14年10月11日
(社)日本技術士会 中部支部
静岡県技術士協会
会長 守屋



技術士継続教育(CPD)参加証明書

あなたは、下記の(社)日本技術士会 中部支部 静岡県技術士協会主催の2002年度中部例会に参加し、4時間の技術士継続教育を行ったことを証明致します。

記

- 1.日 時 平成14年10月11日(土)13:30より17:30
- 2.場 所 静岡ガス(株)本社
- 3.行 動:1)天然ガスパイプライン構想説明 3時30分～14時30分
2)パイプライン工事現場見学
蒲原トンネル西坑口 15時30分～
蒲原トンネル東坑口 16時00分～
富士川シールド坑口 16時30分～
- 4.出席者:別紙

- <会員の現地見学の感想> -

パイプライン工事現場見学の感想文

建設部門(トンネル) 高田 充温

埋設計画ルートの特徴は道路区間が少なく山岳区間が多い、しかも新幹線トンネルに近接となっており、既設地下埋設物、大動脈道路、鉄道等への影響を避けるため厳しい施工条件下の工事である。また、トンネル断面も狭小なため、特殊な掘削機械類を導入するなど更に厳しい条件を余儀なくされている。これに対し、NATM、

シールド工法、立杭位置、充填埋戻等を多用し環境にも配慮しながら合理的な施工で参考になった。無事故で一日も早い完成を祈念しています。

付記 トンネルの専門家である高田充温会員から「工事現場見学」について玉原稿を頂戴しました。敬意と謝意を表します。



[2002 年度・第3 回例会開催]

例会概要

1. 日 時:平成14 年12 月6 日

14:00 ~ 19:00

2. 場 所:クーポール会館(静岡市)

3. 研修会:14:00 ~ 17:00

会長挨拶 守屋文二会長

第1 講 山之上誠会員

「安全衛生」研究会活動について

第2 講 木村芳正会員

「トンネルの話～静岡ガスLNG パイプライン
見学の解説」

第3 講 清水博之会員

「ビジネスデザイン法(BD 法)」の紹介

4. 懇親忘年会:17:00 ~ 19:00

5. 出席者:28 名

6. 付記:

今回は東部、中部、西部代表会員による技術
研修会と懇親忘年会を開催しました。

今回も「技術士継続教育(CPD)参加証明書」
を発行しました。

発表概要

第1 講 山之上誠会員

「安全衛生」研究会活動について



1. 安全とは

「労働安全」は「機会安全」と「作業安全」の融合

設計者・製造者の役割

- 本質安全設計によるリスクの低減
- 安全防護対策によるリスクの低減
- 使用上の情報によるリスクの低減
- 機械の取扱説明書上による警告など

2. 「研究会活動」では「工場見学に基づく意見の交換により、工場側からも喜ばれている」ことの報告もされた

第2 講 木村芳正会員

「トンネルの話～静岡ガスLNG

パイプライン見学の解説」

1. 建設部門以外の会員を対象に、講師の豊富な体験に基づく「建設」分野の概要説明と、広



範多岐にわたる建設分野の一部を、講師の専門および、去る10月例会のLNGパイプライン工事現場見学会の概要について懇切に解説をされた。

2. 講師の専門: 地盤と基礎路線や敷地造成、フィルタイプダムの施工管理、軟弱地盤改良工、基礎工

3. トンネル工法の種類や概要(山岳工法等)及

び、見学地のLNGパイプラインについて詳細に解説された。

第3 講 清水博之会員

「ビジネスデザイン法(BD法)」の紹介



1. BD法の特徴

改革を目指す演繹法 = 戦略企画に最適である。

組織成員が参画 = 組織のコンセンサスが得やすく、説得力がある。

連関図で大局を把握 = 連関図の文章化によりシナリオライティングができる

システム思考 = 方法を習得すれば容易に行える。

2. 「問題解決型」と「問題処理型」の相違や、「BD法の活用例」について懇切に解説をされた。



第29回 技術士全国大会開催さる

第29回技術士全国大会が平成14年9月24日(火)から平成14年9月27日(金)までの日程で開催されました。

当技術士協会からも、守屋文二会長、吉澤淳専務理事外10名の会員が参加しました。

大会概要

開催期間:平成14年9月24日(火)～

平成14年9月27日(金)

大会会場:長良川国際会議場

参加者:1,100名

大会宣言

技術者の存在意義について改めて考え、今後の技術者の向かうべき方向を予測することで、21世紀における「技術者」のあり方を探ることは、日本の将来を考える上で重要なことです。

日本の高度成長を支えてきたのは、技術者魂ともいうべき技術者が持つ高いスキルと、欧米先進諸国に追いつき追い越そうとする熱意でした。

数多くの技術者が、高度成長により国力を増大し、豊かな社会を構築するために、技術開発という課題に取り組んできました。

その後、環境の世紀を迎え、環境保全の点なくしては、技術開発も企業活動も成り立たなくなりました。環境問題はまさに、技術者に与えられた次なる課題であるといえるでしょう。

これをみごとに乗り越え、地球環境問題にめどがついたとき、技術は新たなブレークスルーを実現するものと考えます。

このように成長に伴い発生したさまざまな課

題を解決しながら、技術者はその存在意義を内外に示し続けてきました。しかしさらに、少子化問題、教育問題、技術者倫理など解決しなければならない問題が山積しています。

私達は後世に、美しくすばらしい日本と地球を残すために、これらの問題を整理し、今後の技術者の進むべきベクトルを明らかにし、「理想の技術者像」を明確にする必要があります。「理想の技術者像」とは一義的に定めるのではなく、技術者ひとりひとりが心に答えを持っているべきであると考えます。つまり、ひとりひとりの技術者が今ここに100%投入しながら、理想や将来に思いを馳せて、熱く議論する必要性があるのです。

私達は、心に常に理想を抱き、向かうべき方向を示しながら、2020年をめざして本日新たな第一歩を踏み出します。

社団法人日本技術士会全国大会運営委員会

シンポジウム委員長 降旗 達生



全国大会シンポジウム:

「理想の技術者像を追い求めて」

1. 技術士会研究発表「高度成長期から安定期を経て21世紀へ」

間瀬 雅彦(技術士会)

2. パネルディスカッション

フェーズ 私達がめざしたもの

- 日本人を支えた技術者魂 -

フェーズ 私達が地球を守る

- 万博・環境経済の時代 -

フェーズ 理想の技術者魂を探る

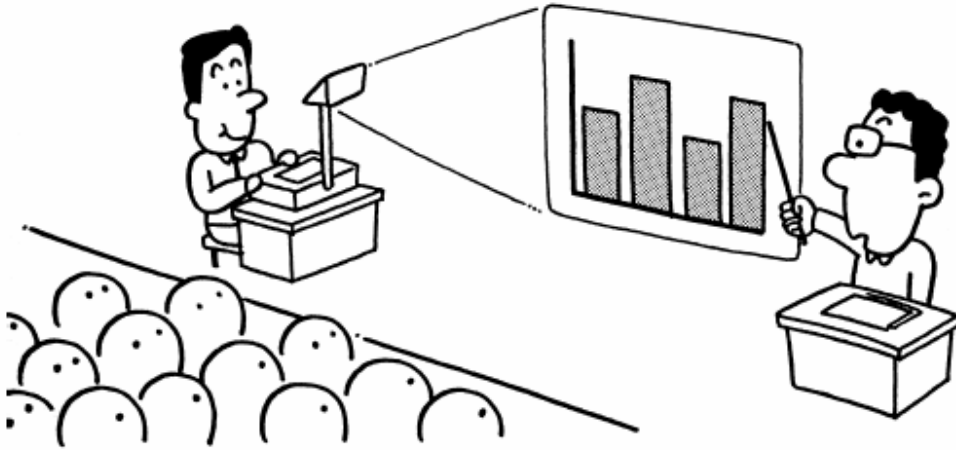
- 天極を追い求めて -

3. 技術士会研究発表「2020 年技術者の姿」

濱田 常雄(技術士会)

記念講演:「自然環境と健康への誘い」

講師: 岐阜薬科大学学長 葛谷昌之氏



シンポジウムに参加して

メモリーより

9月24日 5時起床、6時40分静岡発こだまでシンポジウムへ出発する。

技術の流れを層別して

1. ~ 1985年ころの機能・経済性の2ベクトル。

からくり人形はロボットの原点であり、米国

JDパラー社のCS総合No1を6年間続けてい

るトヨタ・レクスス車。いずれも岩盤のような存在である。

2. 1985年~ 2010年ころは加えて環境保全ベクトルが突き刺さる。

INAXのサティスは水洗便器より水槽部分を排除した。

光合成のある木質家具、家屋の出現。正に自然との共生への道である。

3. 2010年ころから第4のベクトル追求。交流(連携)と名付けてもよい。互に異質であること、個性(地域)が重要になる。

例えば片田舎の地酒が全国ブランドになる(静岡)。このためには傑出した人材による変革が必要で、これは教育であると思う。

ハイレベルの大会であり、色々な切口での討論はよい刺激になった。2005年には技術のオリンピック愛知万博である。

専務理事・吉澤

- 会 員 の 消 息 -

新規入会の方々を紹介します(敬称:省略)

氏名 生年月日 新規入会 技術部門(登録番号) 最終学歴 勤務先



永翁 智堆
(ながおさ としお)
[Redacted]
建設部門(48438)
[Redacted]
(株)環境アセスメン



平田 邦夫
(ひらた くにお)
[Redacted]
建設部門(48801))
[Redacted]
静岡県
静岡土木事務所



牧内 弘明
(まきうち ひろあき)
[Redacted]
建設部門(17572)
[Redacted]
大鐘測量設計(株)

___ お 知 ら せ ___

会員名簿作成後、新規入会の方々の補充会員名簿を来春作成の予定です。記載事項に変更のある方は専務理事・吉澤 淳宛 お知らせ下さい。

静岡県技術士協会内部連絡先のご案内

2002 年、2003 年度の役員は中部が担当することになりました。
事務局は、建設コンサルタントセンター様のご厚意により、従来通り同社内とさせていただきますことになりました。
協会内部の連絡は下記の役員(会長、副会長、専務、常任理事)にして下さるようお願い致します。

役名	氏名	連絡先	電話	F A X	E - M a i l
会長	守屋文二	守屋技術士事務所	054-281-4078	054-281-4078	
副会長	木村芳正	建設コンサルタントセンター	0545-64-6665	0545-64-3690	yo-kimura@kencon.jp
副会長	神立 信	神立技術士事務所	053-436-3496	053-438-8170	kandatsu@pop16.odn.ne.jp
専務理事	吉澤 淳	東洋コーティング	054-246-6804	054-247-3123	atsu-yosizawa@toyocoating.co.jp
常任理事	藤田協右	清水建設	0543-64-1148	0543-64-1148	
常任理事	森 稔夫	森技術士事務所	0547-37-2389	0547-37-2389	
常任理事	山之上誠	住友建設	054-246-6881	054-246-6881	yamanoue@ka.tnc.ne.jp
常任理事	高尾和宏	技研測量	054-237-5871	054-238-7531	

短 信

ホームページ

「当会のホームページに会員相互の情報交換が出来る部屋を新設して欲しい」(牧内弘明会員)の提案がありました。早速、実現の方向で検討します。

ドイツ・ジェット口事務所のホームページ

清水洋彦会員より紹介がありました。ご子息が管理しているものです。「成長を続けるドイツバイオ産業」も参考になりました。ありがとうございました。

第19 回中小企業問題研究会・交流会の案内
(山梨技術士会)

盛会であったと思います。交流(連携)は益々重要なベクトルです。稲葉弘之さん、是非、当日の様子などをお聞かせ下さい。

舞阪町総合体育館工事監査事業

平成13・14 年度分終了しました。伊藤和美さん、ご苦労さまでした。これからもよろしくお願い致します。

創造法認定企業実態調査事業

県商工労働部新産業室より受託しました。平成15 年1 月中旬より3 月上旬の間に約50 社の経営および技術開発の状況調査を県診断士協会と共同で行うものです。企業内容は多岐にわたります。得意分野でのご協力を、是非お願いします。

具体的内容は追ってご案内致します。
(吉澤 淳)

連絡事項

1. 「西部例会」は15 年2 月 7 日(金)、
「浜松ホトニクス」の見学研修を予定しています。先着、23 名となっております。

後日、詳細の通知を差上げます

2. 当協会の「HP」を御覧下さい。

http://www.d3.dion.ne.jp/shiz_ea 情報を可能な限り掲載していきます

3. その他

会員の中で住所等、変更のある方は、専務理事・吉澤 淳宛 お知らせ下さい

(FAX 054 - 247 - 3123)

会の運営、会報へのご意見、投稿等をお待ちしております。

編集後記

今号は2 回の例会、技術士全国大会開催等、記事が多くなりました。連載しております「技術士継続教育(CPD)」につきましては次号以下と致します。例会を支えて下さった方々、貴重なご意見をお寄せ下さった方々に御礼申し上げます。

(文責:編集子)

会費の納入のお願い

2002 年度から会計担当常任理事が変更しました。

「会費の納入」は下記へお願い申し上げます。

年会費8,000 円です。名誉会員の方々には4,000円のご協力をお願いしています。

振込口座:静岡銀行 清水中央支店

普通 0718595

静岡県技術士協会

常任理事(会計担当)藤田協右

(0543 - 64 - 1148)